

岐阜県立多治見高等学校

学校長 鈴木 彰

学校住所 多治見市坂上町 9-141 電話 0572-22-4155

1 会議の名称 岐阜県立多治見高等学校学校評議員会 (第2回)

2 会議の構成 委 員 伊藤 ゆかり 本校卒業生
仙石 健一 本校育友会役員 (欠席)
田財 千裕 多治見青年会議所理事長
中川 進 J R東海多治見駅首席助役
村松 敦子 多治見市養正公民館館長
(委員名は五十音順)

学 校 側	鈴木 彰	校長
	今井 雅人	教頭
	尾形 昭	事務長
	西田 智子	教諭 (教務主任)
	加藤 元規	教諭 (生徒指導部長)
	堀 裕邦	教諭 (進路指導部長)
	可知 幸則	教諭 (特別活動部長)
	丸山 真	教諭 (保健厚生部長)
	河田 雅伸	教諭 (教務部)

3 会議の目的 学校運営や教育活動について地域社会や保護者等に説明責任を果たすとともに、要望や意見を幅広く聞き、地域社会からの支援・協力を得て、それを反映できる開かれた特色ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 令和2年 2月10日 (月) 13:30~16:30 多治見高等学校校長室
委員4人と学校側9人が出席

5 会議の概要

学校からの説明

○（学校長 挨拶）

本校の外から見られた様子について、お聞かせいただき、ご意見を戴きたい。

本年度の成果についてお知らせする。イオンのエコワングランプリで内閣総理大臣賞をとったという大きな成果があった。2年生のゼミ学習で、土岐川をどうすればよく自然再生ができるかといったことを研究し発表した。質問に対する受け答えが大変良かったことが評価され全国1位であった。また、別の地域研究でもタジコンでグランプリをもらった。こちらも探究ゼミでの発表の成果である。

多方面にわたり説明があるが、気付かれた点についてご意見戴ければありがたい。

○（教務部より）

1・2年生では1クラスの生徒数が少なく、1・2年次の全ての授業で少人数授業を展開しているが、生徒の方にはあまり認知されていない。しかし、昨年より、保護者の認知度は上がっている。生徒が実感できるようにしていければと思っている。また、昨年度までアクティブ・ラーニングの研究を進めてきたが、思考力・判断力・表現力を問うような、ただ単にイエス・ノーを訊くだけではない問題作成については、本年度も継続して行ってきた。これ以外にも、ホワイトボード・書画カメラ・タブレット等のICT機器の導入で授業の改善が動き始めている。少人数で余裕を持った形で授業を展開しているからこそ、自分たちが充実した活動ができているんだということを生徒に実感してもらえるようにしていきたい。

昨年度は総合的な学習の時間とLHRを異なる曜日で行っていたが、今年から木曜の6限・7限と2時間続きの時間割にして、探究活動ができるようにした。そのおかげか、「総合的な学習の時間の内容は自分にとって有意義である」という項目の、否定的な回答が昨年度の41%から今年度30%と大きく数値が変わっている。

来年度は3学年すべてが単位制になり、少人数の授業、希望にあった選択授業が本格化する。次に入学する生徒にも、充実した3年間を送ってもらえるように配慮したい。

○（進路指導部より）

今年度重点的にやってきたこととして次の5つの項目がある。①進路目標実現のための支援 ②地域との連携を深めながら進路意識を高めるための情報提供 ③自己効力感・自己有用感を高めるキャリア教育の推進 ④新入試制度の研究の推進 ⑤課題探究型学習の推進

進路支援については、生徒保護者ともに7割近い肯定的な評価をいただき、おおむね良好であった。さらに、進路実現を支援していくことが求められていくと考えられる。情報発信として、ホームページを使ったり進路説明会を開催したりした。この点についても生徒は7割、保護者は8割と高い評価をいただいている。今後は、生徒の方をさらに高めていきたい。新しく入試制度が変わる

ことや、特に3年の保護者の方が進路についての悩みを抱えていることから、関心をいただいていたと思う。

サタスタや3年補習の項目では生徒・保護者ともに評価は低調であった。やっていることが、なかなか、伝わらなかったのか、3年については、希望者補習ということで、内容があまり合ってなかったのかと思う。来年度、内容等を精査しながら、生徒の需要、保護者の期待に応えられる内容にしていきたい。

進路行事では、生徒は68%、保護者は70%から肯定的な評価をいただいている。

探究型活動については、特に2・3年の評価が非常に高い。特にゼミ活動に取り組んでいる2年生は、本人たちにとって満足できるものになっていると考えられる。一方で1年生は低い結果になっているが、まだ、ゼミ学習に取り組んでいないことが理由である。

生徒がやってきたことが積極的にPRできて、入試に結びつくの良いと思っている。学校で学んだことを最大限生かしながら、進路実現していってくれると良い。

学校評議員からのご意見・ご感想

意見・感想1

生徒たちが、少人数の授業が当たり前とってしまうとのことだが、他の授業ではどんな感じか。これが当たり前じゃないと教えられること、感じられることはないか。

(回答)

単に教員から生徒に投げかけるだけじゃない授業について、ホワイトボードを、二人に一枚ずつ持たせ、ホワイトボードを活用して授業を展開することもある。教室にゆったりとしたスペースがないとできないし、クラスの人数が少人数でないと、枚数も足りない。教師側が一方的にしゃべって、生徒が自分の机の上だけでやる授業はもう当たり前じゃない時代になっている。こういった授業の中に自分たちの活動があり、その自分たちの活動を、振り返りシートを通して、先生たちがきちんと見て、評価してくれていると実感できていると思う。

意見・感想2

黒板がホワイトボードになり先生の板書する時間が非常に簡潔に済むようになって、視覚的にその場その場で教え込むことができ、テンポよく学びたい生徒は気持ちよく楽しく授業を受けているのかなと感じた。一方、ついていけないような生徒は、その部分についてどうしたらよいかと思っている子もいるのかなと感じた。そのフォローはしているとのことですが。新しい形の授業方式は、学ぼうという姿勢が今までよりも上がってくるのかなと感じた。

教室はゆったりしていてとてもよい。

(回 答)

少人数なのでフォローもしやすくなる。プリントを配布するなどの工夫もしている。

少人数で話し合ったりする時間を作るためには、どこかをスピーディーにしなければならない。そういった工夫もされている。

意 見・感 想3

3年の希望者による火曜日・金曜日の補習は、こういうことを学びたいと意識を持って参加している生徒に対する補習だと思うが、希望者のニーズはどんなものか。

(回 答)

去年までは、火曜日に1つの教科、金曜日に別の教科という具合に、教科がいくつも選択できた。今年は、1つの授業のまとまりを考慮してターム制で連続して行った。継続して取りたい生徒は1教科しか選べず、複数教科をやりたい生徒に対しては、満足度が低くなってしまったのではないかと思われる。来年度は、複数の科目が取れ、それでいて継続できるような、いい方法を考えていきたい。そう言ったところでニーズに応えられなかったのではないかと思う。

意 見・感 想4

内閣総理大臣賞の受賞を新聞で見て、多治見高校が頑張っていると思った。ふるさと教育ということで、自分の通っている学校の地域のことを探究するのは、入りやすいし、意味のあることだと思う。卒業してからも財産になると思う。頑張っていただけたらと思う。

○ (生徒指導部より)

アンケートの結果分析では、生徒指導の項目の肯定的評価が、ほぼ70%をキープしている。3年間ほぼ同数値であることから、学校自体は落ち着いているとみている。その一方で、元気が良すぎる生徒は、少なくなってきたのかなといえる。教育相談的な部分では、係、スクールカウンセラー、外部組織を通じて組織的に機能しており、きめ細やかに対応してくれている。

本年度、主体的な活動を通じて規範意識の高い生徒の育成。生命尊重と安全意識の高揚。生徒指導、教育相談、特別支援を意識した組織的対応の充実という目標をたてながらやってきた。

特に、主体的活動の中で、生徒会が挨拶運動を行った。昨年度の生徒会の役員が考えた活動が引き継がれていったということは、とてもありがたいことである。警察署が発案したボランティア活動であるMSリーダーズ活動については、新しく振り込め詐欺防止啓発活動を行った。お年寄りの方に、こんなことに気を付けてくださいという手紙を書いて配付する活動を行った。ライオンズクラブの多治見駅の清掃活動、東濃西部少年センターの啓発活動など、今年度うまく活性化ができたと思っている。

スクールカウンセリングと教育相談講話については、教育相談講話としてスクールカウンセラーの川原先生にコミュニケーションの取り方について話していただき、生徒には非常に好評であった。

そういった活動が、アンケートの肯定的な評価につながったと思われる。これをうまく継続していきたい。

課題として、いじめ・不登校の問題がある。いじめに関しては、発達成長期の段階でのぶつかり合いで、ちょっとくじけてしまうと、学校に出づらくなる、クラスに慣れづらくなる。捉え方として、いじめとくられる部分がある。対応に、学校も苦慮している。職員研修会を行い、広く受け止めて、しっかりと対応し、手続きの問題、その生徒への対応の問題と筋道を二つ用意をして、生徒たちが進級・卒業に向け学校生活がしっかりできていけるように支援していこうと話をした。不登校については、特徴的なことは、一つがだめになるとすべてがだめになる生徒が増えてきている。そういったところへの対応にも苦慮している。不登校をもとに休学している生徒や、入学早々、ついていけないということで退学している生徒もいる。

○（特別活動部より）

「部活動は活発に行われている」という項目では、生徒78%、保護者81%から肯定評価をいただいている。よく頑張っていると思う。文化祭・スポーツ交流大会・球技大会等の「生徒会の学校行事は、充実した活動ができているか」について、生徒84%が満足しており、保護者の方も77%が子どもの成長のためになっていると評価していただいている。まずまず順調にしているのかなと思う。来年度、体育館が改修工事に入りほぼ1年使用できなくなり、文化祭や球技大会で今まで使ってきた場所が使えなくなる。そうした中で、いかに、充実感を持たせた活動が計画できるかが来年度の課題になる。

「生徒会活動が活発に行われている」と回答した生徒が66%で、低いイメージを受けるが、3年前よりは12%増加している。文化祭などの大きい行事では生徒会の活動が目に見えてわかるが、目に見えない活動がまだまだ評価されていないところがあるので、PR活動をして、頑張っているところも認知させていきたいと思う。

「学習と部活動の両立がしやすい環境づくり」という項目で、生徒は否定的な回答が41%あり、保護者は肯定的な意見が69%あった。部活動については、ガイドラインがあり、平日は一日休みをとる。休日も二日あるうちのどちらかは休みをとる。そういった中でも、部活動は活発といった項目で高い数値がでているので、部活動の両立というより、学習の方でつまずきを抱えているのではないかと思う。

来年度の課題は、体育館の件をどうするかということ。また、放送委員があるが、いまは活動していない。放送委員の活動を学校行事の写真を撮って、生徒会新聞に載せるといった活動ができなにか考えている。

○（保健厚生部より）

保健管理と生徒の安全管理を担当している。アンケート結果の分析で、2点課題がある。

1点目は防災に関する対策マニュアルの周知についてである。「本校では地震や台風などの場合の対応について対策マニュアルを示し、説明している」という項目で、「説明がなされている」と答

えた生徒が62%で、一昨年度から比べると10%減少している。保護者の「知らされている」という回答は、76%で、昨年度の84%より減少している。対策マニュアルという表現で職員向けのマニュアルを想像した可能性もあるが、生徒手帳にはこういう気象警報が出た場合には、こういう対応をしてくださいという内容の記載があり、また、すぐメールを使って警報が出ているといった発信をしている。どこまで興味・関心を持って生徒手帳を見てもらうかが課題だと思われる。取り組みとして、命を守る訓練やLHRの保健指導で防災を取り扱っている。災害に対する危機感を高めていくことを継続して、課題として取り組んでいく。いつ誰の身にも起こりうる問題だということを知っていていけたらと思っている。

2点目は、校内美化に関わる点についてである。「校舎は古いが清掃が行き届いており校内がきれいである」という項目については、一昨年は48%で50%を切っていたが昨年度53%、今年度59%と上がっている。掃除は行き届いている。あまりきれいじゃないという意見も35%ある。このあたりをどう改善していくかが課題である。本校の廊下や階段が白いので掃除が終わって何百人もの生徒が移動するとすぐ汚れてしまうということある。難しい課題であるが、具体的な対策として、生徒の帰宅後に、防災美化委員でまた掃除をするといった取り組みもしている。来年度以降、そのあたりを継続して、課題としてやっていきたい。また最近、コロナウイルスのこともあり、マスクをしたり、よく手洗いをしているが、手を拭く生徒が少ない。その為、水気が廊下に垂れ、廊下が汚れていくといったこともある。そういった点についても、防災美化委員会や保健委員会で、活動をしていきたい。

学校評議員からのご意見・ご感想

意見・感想5

体育館の工事が来年度あるということであるが、部活動に直接影響があると思うが、着工はいつからか。

(回答)

5月の連休明けから6月の間に着工される。2月の終わりぐらいまでかかる予定。

公共施設の体育館では一年ぐらい前から予約がされているので、現在使っている間を縫って使われるのか、先生方が大変苦勞するのではないかと思う。

(回答)

特活部の方でも事前に調べている。なかなか難しいところがある。

部活動の両立に影響するのかなと思う。

公民館にも、卓球台が5台ある。

意見・感想6

命を守る訓練について、生徒に対する意識づけは、どうしているのか。生徒手帳にかいてあるということだが、抜き打ちで訓練したりするのか。

(回答)

命を守る訓練以外に帰宅確認訓練を実施している。学校からメールを送り、今、自分が帰宅途中なのか、家に着いているかを返信し、生徒がどこにいて安全確保できているのかどうかを学校が把握するといった訓練も年に1回実施している。

命を守る訓練は、ここ数年は、シェイクアウト方式で、告知をせずに、いきなり放送を入れて、緊急地震速報が入ったので、身を守る体勢をとるといった形の訓練を増やしている。

意見・感想7

防災対策に関して、地域、自分が歩いている通学路が、防災についてどうであるかを、地域の研究の題材にすると、更に自分なりの地域の輪が作れるのではないか。併せて、防災に興味を持って自分のこととして捉えられるのではないかと思った。探究ゼミは素晴らしいと思う。是非、地域の輪に、いろんな角度から捉えられたらよいと思う。

意見・感想8

前の会議で、いじめのアンケートの回数を増やすという話を聞いた記憶であるが、どうであるか。

(回答)

いじめのアンケートは、年間3回行っている。その中からいじめの件数として報告したものは5件あり、内訳は2年生の女子で1件、3年生で男子2件、女子2件であった。その内容は、「陰口をいわれている気がする」で、我々としては、調査すべきことは調査するが、申し出てきても、あまり深く突っ込まないでほしいという生徒の要望もある。そこをうまく考慮しながら対応している。

意見・感想9

アンケートの中の「いじめや差別の未然防止や早期対応に努めている」の項目が74%から66%になっている。30年度が急に上がっているの、何とも言えないが、この点はどうであるか。

(回答)

昨年度、1年生で、いじめの訴えがあり、アンケート調査や、学年集会を行い、より丁寧に、いじめの問題を話した。問題があり、その対応をすると、生徒にも、先生方がいじめの対応で動いていることがわかり、そのため、その項目の数値が上がったと思われる。

それを裏付けることとして、学年別の肯定の数値をみても、2年生の数値が1番高い。このこと

から、1年生の時の指導が今も生きていると思われる。

意見・感想10

いじめは増えているのか。資料の中にも「不登校に陥りやすい生徒も増加傾向にある」とあるが。

(回答)

生徒指導の問題として、反社会的な生徒ではなく、心の問題を抱える生徒は増えている。あるいは、発達障がいのある生徒への対応といったことで増加している。

SNSで密につながっていることで、人間関係が難しくなっている。

コミュニケーションの取り方がうまくできない生徒や、断られたことを、すぐに嫌われたと受け取ってしまう生徒が増えている。嫌われたからすべてだめとってしまう。

いじめというよりメンタルの問題ではないか。

(回答)

法律上は、いじめとして訴えがあれば、いじめとして問題解決していく。ただ、我々では判断できない部分もある。法的には上に繋げていくことになる。我々は、言ってきた生徒、言われた生徒の対応をしていかなければならないというスタンスを、一生懸命やっ払いこうという意思統一している。

意見・感想11

いじめの件では、本当に先生方は大変だと感じている。

○(カリキュラム・マネジメントについて)

令和4年度から新学習指導要領の実施が開始する。いままでは、学校でしか通用しない、テストでしか通用しない知識が多かった。これからの社会では、社会に通用するような学力、資質、能力が強く求められる。高校教育でも、そういった部分をいかにつけるかが課題になってくる。一方、生徒たちの中には受け身の生徒が多い。そういった生徒をもっと大きく育てていきたい。本校は、卒業してから地元で活躍する生徒が多い。多治見高生が地元を支えてほしい。そのような要望もあり、「社会に開かれた教育課程」を実現するために、カリキュラムを大きく見直したいということで取り組んだ。

社会で必要とされるものを、どのように学びの場に定着させるか。そのために、1つは、教育目標を見直さなければならないと考えた。半年以上、職員で議論し、来年度から、新しい目標を始めることになった。三位一体構造ということで、大きな目標として「自ら未来を切り開き社会に貢献できる人物の育成」とした。それを実現させるために、下位目標として「粘り強い探究力」「一歩前に踏み出す行動力」「ともに高め合う協働力」の3つを設けた。どういことができたならその目標実

現できたとみなせられるのかは、資料の17ページに示された内容である。来年度はさらに、教科の科目のどの単元でこれができるか具体的に考えていくことになる。

来月の終業式で、生徒たちにこのように目標が変わると、具体的なイメージをもたせながら説明する。保護者の皆さまにも、目標が変わることを伝え、ご協力を願う。中学生にもアピールしていきたいと思う。

古いものを捨てるというわけではなく、これまでの校訓やスローガンは大事にしている。古い伝統を守りながら、新しい伝統を創造していく。

○（ふるさと教育について）

現在までの進路状況の説明。

ふるさと教育の取り組みとして、真坂淳氏を講師に迎え「激動の時代をイキイキ生きるために～地域（ふるさと）、日本、世界に羽ばたくチャレンジャーになろう～」という演題で講演会を開催した。前向きに考えていこうという生徒、今まで躊躇していたがやっぱりやりたいと思ったという生徒が、講演時の意見交流で増えてきた。ふるさと教育の中でも、いい結果が増えてきているのかなと考えている。

地域課題探究型学習については、県教育委員会から研究指定を受けて取り組んでいる。中心は2年生のゼミ学習で、今後、2月13日に学年発表会、2月27日には全校発表会を実施する。時間があれば見学していただきたい。

今年度、外部との連携を深めるために、2時間続きでゼミ学習の授業を実施してきた。月に1回は、学校の外へ出ていく活動を薦めている。11のゼミを開講したが、そのうち、地域との連携が強かったものは次のゼミであった。

プロジェクトX『土岐川』。エコワングランプリで賞をいただいた取り組み。

町づくり活性化プロジェクト。タジコンに出たゼミで、まちづくり株式会社と提携した取り組み。

English & Education。養正小学校で子供たちに英語を教える取り組み。

健康・医療・福祉の関係のゼミ。外へ出ていくことはないが、保健師さんや看護師さんを講師を招いて、血圧の測り方を実習したりなどの連携をした。

課題研究とサイエンスショー。小学生に化学実験をプレゼンする活動をした。

こういった活動を通し、地域との連携を深めながら、ふるさと教育に取り組んでいる。今年度、結果が残り、良い取り組みであったと思うが、2年生中心で行っているので、担当が変わると継続できるかといった心配はあるが、これら5つのゼミは継続していけると、本校の特徴となっていけるのではないかと思う。是非、ご協力もいただきたいし、13日、27日の発表にも取材にきていただきたい。

学校評議員からのご意見・ご感想

意見・感想12

是非、また賞を取っていただいて、生活情報誌「おりべくらぶ」で記事にしたい。

授業を参観し、以前とは変わったと感じた。時間短縮になるということと、授業についていけない生徒がいるかもしれないことは、私も感じた。情報量が多い中で、若い方たちは生きている。そういうことを、どういう風に整理するか。授業も、今後は楽しみだと思った。

意見・感想13

パワーポイントを使った授業が、素晴らしいと思う反面、先生方のスキルによって、内容が分かりやすいものになるかならないかがかわってくるのが危惧されると思った。ただ、いろいろやってもらって、更新してもらえればと思った。

また、賞を取られたということは、それだけ、地域に認められているということで、すばらしいと思う。多治見青年会議所でも一緒にゼミの取り組みができたらと思う。

意見・感想14

自分の頃は、先生が書く板書を必死で目で追って書いている形だったが、生徒に問いかけて生徒の発言を促すといった、考えさせることに力を入れているということがわかる。これだけ改革をしていくのは素晴らしいと思った。地域の企業代表ということで参加させていただいているが、直接触れ合う機会もなかなか少ないので、私共にとっても、何かいいチャンスをいただければと思う。

意見・感想15

変革の時期に来ていて、生徒たちの将来を支える力となるために、いろんなことに取り組んでいるということをまず思った。カリキュラム・マネジメントについても、緻密に目標に向かって計画しているのは素晴らしいことだと思う。社会で通用する学力・資質向上を目指して取り組むということで、去年変えると言っていた内容をきちんと今の生徒に合うものに変えて、変化が目に見えることは素晴らしいと感じた。

授業もホワイトボード・プロジェクターを取り入れ、まったく去年と違う取り組みになっている。明らかに去年と今年が変わっているので非常に感動した。

大変かと思うが、生徒のために頑張っていていただきたいと思う。

公民館でも、講座で、吹奏楽部や探究ゼミのサイエンスショーをやっていただき、地域の小学生のために活躍している姿を見て、頼もしいなど思っている。保護者の方にも大変好評で来年も受けさせたいという言葉をいただいている。着実に、学校や生徒の思いが届いていることをお伝えしたい。

6 会議のまとめ

○（学校長より）

外部での発表において当初生徒はメモを見ながら話すことが多いが、経験を重ねるうちにメモを見ず話せるようになってくる。こういった経験が大事だ。いろんな経験をさせて失敗する経験も大切である。地域の良さは生徒の失敗を受けとめてもらえるところにある。どんどん一歩前に踏み出して行動させて、そこでいろんな評価を得て、成長していければよいと思う。引き続き支援をお願いしたい。